



# ジャグラーズ通信

1999年3月5日 第3号



## レポート EJC Report

【ヨーロッパ・ジャグリング・コンベンションに参加して】  
=その3 ワークショップについて=

ワークショップは1人の講師が自分の得意分野を数十人の受講者に教える、いわばレッスンです。開催時間は1時間単位で12時から18時頃まで。料金は、初日に支払った67英ポンドにすべて含まれているので無料です。定員制ではないのでスペースの許す限り参加できます。人が多く窮屈なこともありましたが、おおむね自分の受けたいだけ受けることができるといえます。

3ボール、4ボール、5ボール、デビルスティック、3クラブ、5クラブ、ディアボロなどは、それぞれのものについてビギナー、アドバンス、オールレベルミーティングなどに分かれています。その他、クラブパス、一輪車、パントマイム、帽子、コンタクトジャグリング、ベリーダンス、タップダンス、ポロ、クラブスイング、トランポリン、ロープ、綱渡りなどのワークショップが開催されました。

あらかじめ受付や掲示板にワークショップのタイムテーブルが貼り出され、それを見て1日の計画を立てます。ホールで練習していると、英語で「今からここで、          についてワークショップをやりませう。受けたい人は集まってください」というようなアナウンスがあり、それに対して希望者が集まって来ます。皆が3本のクラブを持っていれば、それで3本のクラブで何かやるということが解り、私もクラブを急ぎ取りに行き、加わりました。

ワークショップは次のような感じで進められます。講師の簡単な挨拶。講師が技をひとつ披露し、コツや注意する点が説明されます。「ではやってみて下さい」と言われ、受講者は各々練習。講師がまわって来てアドバイスを受けることもあります。数分後、「次のステップへ行きます」という講師の声に、皆が注目。次のステップの模範演技と注意事項のレクチャー。そしてその技の練習。この繰り返して段々と高度な技術に発展していきます。なかなかうまくいかないでいると、レベルの高い受講者がやって見せてくれたり、隣同士で、「できないね」と話したり、和気あいあいとしています。

一通りの講義の後、講師の「何か他の技をできる人はいますか」という語りかけ。すると受講者がそここから手を挙げ、みんなに自分なりの技をみせます。これで一回のワークショップは終わりです。そして講師に対する惜しめない拍手。終わってもなお講師に説明を受けたり、お礼を言ったり、握手をしたりしています。一緒に頑張ったもの同士自己紹介することもありました。

私が参加したのは、3ボール、3クラブ、デビルスティック、クラブスイング、ボールバウンス、帽子、コンタクトジャグリングです。ワークショップは、自分に難しすぎることも、簡単すぎることもあります。最後まで習ったからといって必ず会得できることも限らないし、最後まで出ていて、途中で習ったことがおろそかになり、消化不良になったこともありました。そこがとても悩むところです。

また、講師の名前をきちんと伺っておかなかったため、どんな人が講師に名を連ねていたのかここでご紹介できないのが残念です。しかし偶然一人だけ知っている人がいました。

97年、98年と静岡の大道芸ワールドカップイン静岡に出場したニルス・ポールです。帽子の講師でした。また、今回のコンベンションのナイトショーに出演していたジェイ・ギリガンが5クラブを担当していました。

ワークショップは効率的にスキルアップさせる手段であり、私にとって貴重な経験でした。ワークショップはざっとこんな様子です。

次回は、言葉についてのヒントを記してみようと思います。

[喜多村 充伸]





## 【大道芸と警察と市民と】

### はじめに

1985年(2)、1986年(7)、1987年(9)、1988年(15)、1989年(40)、1990年(48)、1991年(87)、1992年(85)、1993年(148)、1994年(221)、1995年(263)、1996年(335)、1997年(425)、1998年(377)。

さて、かつこ内の数字は何を表わしているのでしょうか？

正解は、「大道芸」というキーワードで朝日新聞、読売新聞、毎日新聞の記事データベースを各々検索してヒットした件数の合計数字です。

これからも分かるように「大道芸」という言葉は、ここ数年様々なメディアで扱われたり、イベントとしての大道芸が流行ったりと、すっかり市民権を得た感があります。

しかしながらそんな大道芸もご存じの通り、路上では「道路交通法(以下、道交法)」により、許可なくして演ずることはできません。何故そうなったのでしょうか。

ここでは明治期以降の近代都市建設の際に、大道芸がいわゆる行政警察と一般社会からどのような認識でとらえられ、そして取り締まられていったのか、その経緯をたどり背景を探ることにより、現在の「大道芸」というものを考えてみる一つのきっかけを提示します。

### 道交法について

現行の道交法は昭和35年(1960年)に公布・施行され、その後の法改正を経て、目的として交通の安全、交通の円滑、交通公害の防止の三つの柱をあげて制定されています。

道交法の「5章1節 道路における禁止行為等」によれば、道交法によって禁止されている行為には、絶対的に禁止されている行為(第76条 禁止行為)と、許可を受けなければしてはならない行為(第77条 道路の使用の許可)とがあります。

大道芸人は、以下に記する第77条一項(4)の行為者に該当すると見なされるので、演ずる際には所轄警察署長の許可を受けなければなりません。しかし実際に許可を得て演ずる芸人の方はいらっしゃるのでしょうか。また、申請しても許可は即座に下りるのでしょ

うか。ちなみに道交法は公道、私道の区別なく適用され、許可を受けないでその行為をすると三ヶ月以下の懲役または三万円以下の罰金に処せられます。

#### 第77条一項(4)

……、道路において祭礼行事をし、又はロケーションをする等一般交通に著しい影響を及ぼすような通行の形態もしくは方法により道路を使用する行為または道路に人が集まり一般交通に著しい影響を及ぼす行為で、公安委員会が、その土地の道路または交通の状況により、道路における危険を防止し、その交通安全と円滑を図るため必要と認めて定めたものをしようとする者

道路は交通のみならず、防災・美観などの役割をもつ公共スペースですが、一方で誰もが利用できるオープン性ゆえこれらの役割を邪魔する様々な行為が存在します。大道芸もその行為の一つ、特に交通妨害にあたるとして取り締まられているというのが一般的な解釈でしょう。しかし話はその単純ではないように思えます。

### 大道芸と警察

この項は、「引用および参考文献等」で紹介する野嶋政和さんの論文等の要約とお考えください。

日本のほとんどの芸能は、大道や広場や門口などの路上で生業(なりわい)の場とする旅芸人の芸を起源としています。

しかしこういった旅芸人は農耕生産を主とした日本のような定住社会では生産に関係しない「はみ出した人間」として、恵まれた待遇も正当な評価も与えられる事はありませんでした。

そういった旅芸人が盛り場である都市に集まり、また都市で職をなくした人が路上での芸を生業とするようになるのは自然の成り行きとも言えるでしょう。明治期における都市空間の近代化にあたっては、治安対策、風俗改良あるいは衛生向上のため「スラム」の物理的排除がなされましたが、同時にその「スラム」の住人の代表的な職業として「大道芸」が位置づけられていました。

つまり「スラム」と「大道芸人」は差別というまなざしの下で、都市から排除・追放されるべく取り締まられていったのです。

明治初期において大道芸は道路であっても指定された地域では認められていましたが、芸人に対して免許申請を行う事を義務づけた「諸芸人鑑札制度/明治9年(1876年)」をはじめとして以降数々の警察による取り締まり規則が実施されることとなります。

警視庁の「角觥興行及ヒ諸観物興行場制限/明治19年(1886年)」では、大道芸・見世物興行の許可空間は数ヶ所に制限され、さらに大道芸人を寄席や劇場等の常設空間での芸人とは明確に区別し「下等ノ藝人」と位置づけ「狂々無頼不良ノ徒アル」とし、警察は大道芸人を直接取り締まり管理する必要があると認識していました。

明治24年(1891年)に制定された「観物場取締規則(警視庁令)」では見世物・芸能の種類を「角觥、撃剣、軽業、手品、足芸、力持、曲馬、犬芸、猿芸、独楽廻、人形、大神楽、倭獅子、パノラマ、其他諸種ノ技芸動物等ノ類」と規定していますが、付録文書を含めたこれらの文書には警察の大道芸に対する考え方が示されています。

つまり、文書内には大道芸は「古來の因襲」である「貧民」の職業であり、「各地ニ徘徊スル者」であり、「偷盗・誘拐等ヲ為スノ弊害少ナカラザル」存在として、いわば「犯罪人」にも等しく認識されていました。

そういった見方は当時の新聞紙上にも反映されていたようで、一般的にも大道芸は明らかに寄席や劇場などの常設興行とは一線を隔て、芸能としては認知されておらず、また風俗・治安を乱し交通を妨害する職業、すなわち「正業」ではなく「遊業」として認識されていました。

明治33年(1900年)には「道路取締規則(警視庁令)」が発令され、道路の安寧、通行、風紀、清潔をつたい、「観物場取締規則(警視庁令)」と併せて大道芸がますます取り締まられていくのでした。

大正15年(1926年)に「道路交通取締規則(警視庁令)」が発令され、やがて昭和35年(1960年)に「道路交通法」が法令化されました。その時点で単なる規則ではなく法律化されたのです。

さて話は変わりますが、簡単に公園での大道芸の取り締まりについてもふれておきましょう。

明治期には警視庁からの要請で「公園揭示」が制定され、「諸藝ヲ以テ園内ヲ徘徊シ、錢ヲ乞フ者立入ル可ラス」とつたわれたように大道芸は明らかに禁止され、公共スペースとして道路と同様の取り締まりを受けました。

さすがに現在の「都市公園法」を見てもこういった露骨な条項は見あたりませんが、大道芸を取りしまえる内容は読み取ることができます。ただし例外的に静岡市のように演技許可を受ければ、都市公園条例の管理下の場所であっても大道芸を認めている自治体もあります。

## 大道芸と市民

私は何も警察法を批判しているわけでもなく、かと言ってもちろん法律に従い大道芸人を道路から絞め出すことに賛成しているわけでもありません。

年令も性別も職業も地位も様々でたまたまそこを通りかかった際に、パフォーマーの技量によって急きょ観客という立場に置かれた人々を相手にした、生業としての大道芸は何も無かった空間に突如として現れた、そしてその瞬間にしか存在しえないスリリングでかつ魅惑的な素晴らしい世界です。

生業としての大道芸は、芸人の生き様そのものです。そういった芸人が創り出した空間に、観客として身を置く心地好さは何とも言えません。

さて私の関心は、明治期における警察や世間という一般社会の大道芸(大道芸人)に対する認識は、100年以上経った今ではどう変わったのか、あるいは変わっていないのかという事です。

新たな自己表現の場を求めて、あるいは趣味として等々・・・路上に立つパフォーマーが増え、芸の演目自体も多種多様になり、イベントとしての大道芸フェスティバルが盛んに各地で開催されるに依りて、「大道芸」そのものの意味が広範囲にとらえられ、今日ではファッション的な響きさえ感じられ、大道芸はすっかり日常的なものとして受け入れられたようにも思えます。

それでも何かひっかかります。例えば、

## 引用および参考文献等

「道路交通法(昭和35年6月25日法律第105号)」  
「都市公園法(昭和31年4月20日法律第79号)」  
「オープンスペースとしての道路における秩序の系譜-東京での大道芸と雑業への取締」野嶋政和/ランドスケープ研究(1998年)  
「近代都市空間の秩序形成過程における衛生思想と警察」野嶋政和/ランドスケープ研究(1997年)  
「東京市区改正期における近代とし公園の展開」野嶋政和/都市計画論文集(1994年)  
「警察六法」警察庁長官官房企画課編集/東京法令出版  
「警察の社会史」大日方純夫/岩波書店  
「警察法入門」杉村敏正ほか編/有斐閣  
「市民の生活と警察」自由法曹団編・著/みずち書房  
「盛り場の民族史」神崎宣武/岩波新書  
「さすらい人の芸能史」三隅治雄/NHKブックス  
大道芸の新天地を求めて(<http://www.j-link.ne.jp/yu-min/chiiki2.html>) 新井由己

## 追記

ジャグリングとは直接関係ない話になってしまいましたが、実はもう一つ気になっていることがあります。それは「ジャグリング・イコール・大道芸」という図式が一般化しつつあるということです。ジャグリングの表現手段の一つとして大道芸があるわけで、ジャグリングと大道芸を同義として混同して欲しくはありません。そのあたりのことは次号に書かせていただきます。

さて、この文章を書いた後に、詩人の筏丸けいこさんがお書きになられた「都市の路上に正座する『見つめる大道芸人』雪竹太郎」(現代思想・1998年8月号掲載/青土社発行)を読む機会があり、大道芸のことを考えていた私にとっては、頭の中のモヤモヤ(霧)が晴れた思いがしました。筏丸さんの着眼点の鋭さ、洞察力の深さもさることながら、大道芸に対する並々ならぬ情が感じられ、読んでいると大道芸というものの本質が、具体的なイメージとして目の前に浮かび上がってくるようです。是非、是非、皆さんにも読んでいただきたいと思います。

[安部 保範<abesan@bf.mbn.or.jp>]



## お知らせ Information

【キットサマーズ・ジャグリングワークショップ開催(予定)】

\*\*\*\*\* 以下、西川正樹さんからの情報提供です \*\*\*\*\*

昨年に引き続き、今年も5~6月に、アメリカのジャグラー・キットサマーズのジャグリングワークショップ(各2日間)を東京と大阪で開催する予定です。

昨年東京で開かれたワークショップには、約25名のジャグラーが参加し、キットの熱のこもった指導が行われました。今年もその深い経験に根差した指導で、技術面だけでなく精神面でも学ぶことの多いワークショップとなるでしょう。

日程・開催場所等の詳細は未定ですが、決まり次第お知らせ

代表的な国語辞典では、大道芸を「大道で演ずる卑俗な芸」と説明……どの辞典を見ても概ねそういう書き方がされているでしょう。

不景気になると、にわかには増えてくる大道芸のイベントとフェスティバル……芸人の方々は十分な待遇と評価を受けているのでしょうか。また満足のかい芸を演じることができているのでしょうか。

大道芸と言っても演者にとっては魂のこもった一つのプログラムなのに、その芸のビデオは撮りたい放題……芸人の権利はどこにあるのでしょうか。

演技終了後の芸人に向かって、5円玉を右手に、1円玉を左手に持ち、「どっちがいい?」と聞く観客……投げ銭が入っている帽子の中を垣間見て、1円玉、5円玉、10円玉の何と多いことでしょう。

「大道芸だから」それでいいんだよ、と納得する前に、その「だから」について考えてみませんか。何故「大道芸だから」許されるのでしょうか。

以上のように、警察による取り締まりや世間の認識を含めて、芸人の質、観客のモラル、地域との共存等々、大道芸を取り巻く様々な問題に関しては、日本人の芸能・芸術に対する接し方や歴史的背景など文化的側面から語られることが多いのですが、それだけでは何も解決しないでしょう。

街づくりにおいて市民の声が反映されない行政システムも問題ですが、自らの生活全てを「お上(行政)」に委ねていれば善しとするような市民の自立意識の欠如こそが本質的な問題なのかもしれません。



## 【Compendium of Club Juggling】

書名 :Charlie Dancey's Compendium of Club Juggling  
 著者 :Charlie Dancey  
 出版 :Butterfingers  
 Unit 10, Burnett Business Park, Gypsy Lane,  
 Burnett, Keynsham, Bristol BS18 2ED, England  
 Tel: (0)1179 866680 / Fax: (0)1179 866690  
 Email: mailbox@butterfingers.co.uk  
 価格 :14.95 ポンド



前回ご紹介した『Encyclopaedia of Ball Juggling (ボールジャグリング百科事典)』(以下 EBJ)はいかがでしたか？  
 著者のチャーリー・ダンシーにジャグラーズ通信を献本したところ、「日本語は読めないけれど、日本語に訳された自分の本を見て、とてもうれしい！」と喜んでいました。

今回は、同じ著者による続編『Compendium of Club Juggling (クラブジャグリング概論)』(以下 CCJ)をご紹介します。

前著のボリュームをしのぐ 230 ページの厚さがあり、ジャグリングの技や関連知識 190 項目の見出し語がアルファベット順に並んでいます。  
 各項目では技の説明をするだけでなく、練習する上での注意点や演じる上でのヒント、発展技などを小項目として挙げており、その総数はなんと 700 以上！

CCJ の中だけでなく EBJ についても、関連する項目を太字で示してあるので、1 つの項目を手始めとして読み進めていくことができる点も前著と同じです。  
 EBJ を参照してはいますが、CCJ を読むために EBJ がどうしても必要だというわけではありません。重要な項目は CCJ でもあらためて詳しく説明してあります。

本の作りとしては EBJ とまったく同じですが、内容的にはやや違った感じを受けます。

まず、EBJ が主に一人でのジャグリングの技を扱ったのに対し、CCJ では個人技だけでなく複数のジャグラーによるクラブ・パッシング(クラブの投げ合い)に多くのページを割いています。  
 これは、クラブがパッシングに向いていることに加え、パッシングはジャグラー同士のとても楽しいコミュニケーションであり、クラブの醍醐味はパッシングにあるという著者の考えによるものようです。  
 たとえば、初心者はスリークラブ・カスケードから読み始めることとなりますが、カスケードができるようになったらすぐにパッシングを練習するように著者は勧めています。

次に、EBJ でも使われたサイトスワップ、梯子型表記法 Ladder Notation に加え、パッシングのパターンを記述するための表記法としてカジュアル・ダイアグラム Casual Diagram が加わり、文章による説明を補っています。

結果的に、文章とイラストだけでなく、さまざまな表記法が本全体にちりばめられ、はじめての人にとってはとっつきにくく見えるかもしれませんが、しかし、各表記法については詳しい説明をきちんと行なっているため、心配ありません。  
 頭の体操だと思って理解してしまえば、簡潔で正確な表記法であることがわかるはずです。

3 つめの違いは、項目あたりの文章が長いことです。  
 EBJ では技ごとに見出し語が付けられており、1 ページに 2 つから 3 つの見出し語が載っていましたが、CCJ では見出し語 1 つが 1 ページに収まらないものが多く、さらに 1 つの見出し語の中がいくつもの小項目に分かれて数ページに及ぶものもかなりあります。

たとえば、パッシングの基本であるフォーカウントについては、基本から応用まで含めて 6 ページが割かれていますし、ファイア・ジャグリングについては、道具や燃料の選び方、練習する上での注意、演じるときの注意などのいろいろな知識が 4 ページに詰め込まれています。  
 このような違いが生じるのはボールとクラブの性格の違いによるものだと思いますが、見出し語 1 つあたりの説明が長いので英語を読むのにやや気力を要し、EBJ でできたような気軽な読みはちょっとしにくく感じます。

このように紹介すると、EBJ より敷居が高く感じられるかもしれませんが、でも、読んでみれば、実際的で有用な情報に満ち溢れていて面白いことでは EBJ に勝るとも劣らないことがわかるでしょう。

とくに中級者にとっては、いろいろなアイデアの宝庫です。しかも、一度読んだら終わりではなく、上達してから読み返すとまた新たな発見があり、長い間楽しめる本であることは保証します。

たとえば、私自身は相手がいないこともあってパッシングはほとんどやりませんでした。今回の書評のために今まで読んでいなかった部分を読んだところ「このパッシング・パターン、面白そう！」、「リズのタイミングってこうなっているんだあ」といろいろな刺激を受け、パッシングもやってみようかという気にさせられました。

また、前述のファイア・ジャグリングの項の、燃料の引火性や毒性、トーチの選び方や扱い方に関する注意は、火を使う人には必ず読んでもらいたいものです。  
 (その際は、著者がイギリス人であり、同じ英語でもアメリカとは燃料の呼び名が違うことに注意してください。一般に燃料の呼び名は、国によってまったく違うので外国で燃料を買うときには気を付けましょう。)

EBJ が気に入っていて、クラブにも興味があるなら、ぜひ CCJ も買うと良いでしょう。  
 そのときにはパッシング友達を見つけることも忘れずに！

CCJ も EBJ 同様、出版元の Butterfingers をはじめ、アメリカ、ヨーロッパのいろいろなジャグリングショップで扱っています。  
 Butterfingers でも通販を受け付けており、Visa, MasterCard も使えるそうです。

今回も、著者の好意により、サンプルとして一部を翻訳して紹介します。  
 前回はちょっとしたための訳だったので、今回はやわらかくいってみましょう。  
 なお、ポストン・サークルの図はカジュアル・ダイアグラムではありません。  
 カジュアル・ダイアグラムも紹介したいのですが、紙面がないので今回は見送りました。

## ボストン・サークル (Boston Circle)

ボストン・サークルは、3人から11~12人までなら何人でもできる変わったパッシング・パターンだ。フィードの一種だけど「全員が全員とパスをする」ところが面白い。ジャグリング大会やワークショップでみんなやると、とても楽しいパターンだ。「ぐるぐる回り(Turning Circle)」とか「大宴会(Feast)」とも呼ばれる。

さらに、どんなリズムでやってもうまくいくからツーカウントでも、スリーカウントでも、フォーカウントでも、なんでもできる。でも、僕はスリーカウントを勧めるね。必要な技術レベルとパスのやりやすさのバランスがちょうどいいから。

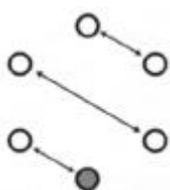
まず、みんな内で側を向いて円陣を組み、それぞれ3本のクラブを持って、右手からファスト・スタートで始める用意をしよう。

それぞれのジャグラーは、時計周りで順繰りに自分を含めた全員とパスをするんだ。無理な注文に思えるかもしれないけど、ちゃんと説明するからね。6人でボストン・サークルをやる場合を例にとろう。

まず、最初に左隣の人と互いにパスをするところから始めよう。次に左へ2番目の人とパス、次には真正面の人と、という順番で回していくと、最後に自分自身の番が回ってくる。自分自身にパスをする番がきたらパスをするかわりに一回休みをして、次は左隣の人に返る。

ほら、簡単だろ。時計周りのどこから始めるかが人によって違うだけで、みんな同じことをするのさ。あとは、どうやって始めるかだけが問題だ。

まず、自分がリーダーになって、自分が左隣の人と互いにパスをするところから始めることに決めてしまう。そのパスが飛ぶ直線と平行な線ができるように、円陣上の他の人を向かい合わせる。すると下図のように、最初にパスをする相手が決まる。



「リーダー(灰色の丸)の最初のパスの方向を基準にして、他の人のパスの方向を決める。」

もし、人数が奇数のときは、誰か1人は自分とパスをする(つまり、セルフを投げる)ところから始める。

全員の準備ができたらアップ・ダウン・ゴー!  
(訳注: クラブを上げて下げる動作による合図でクラブを投げ始めよう。)

これが6人でのボストン・サークルのパスの流れだ。この六角形のパターンでは、1回おきに2人のジャグラーが自分自身とパスをすることになる。

右利きの人とはたぶんツーカウントがやりやすいだろうけど、両手でパスをできるようになってスリーカウントでやるほうがずっといい。

最低3人でもできるし、最高は11人くらいまでできる。

## ラブグローブ・ループ (Lovegrove Loop)

ラブグローブ・ループは、ヘリコプターとも呼ばれることもあるけど、この本のヘリコプターとこの技はぜんぜん違う。共通しているのはジャグリング・クラブが水平に回るところだけだ。

この本のヘリコプターは、ジャグラーの頭のとっぺんに釘で刺したみたいにクラブを水平回転させる技だ。でも、ラブグローブ・ループでは、腕全体を使ってクラブをブンブン振り回すんだ。まるで、斬り落とした敵将の首を振り回して敵軍を威している狂戦士みたいだね。コンパット・ジャグリングでにらみあっているときに相手をびびらせるにはもってこいだ。

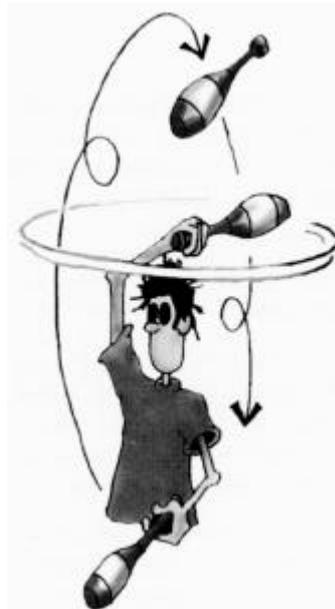
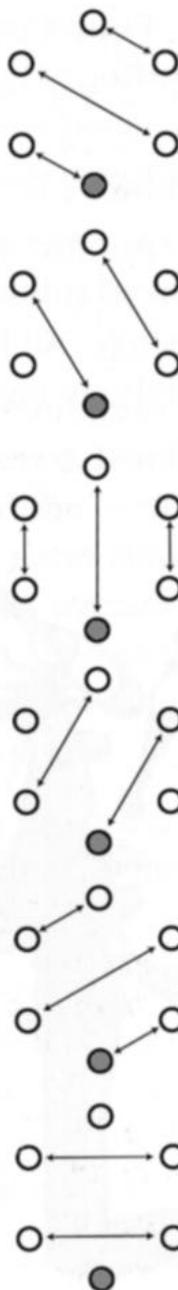
左手でダブルのツー・イン・ワンハンドをしながら、3本目のクラブを右手で構える。左手のクラブのタイミングをよく見て、ツー・イン・ワンハンドの真ん中を通して右手に持ったクラブ(つまり首)を右から左へ振り、そのまま振り回し続けて、もう一度ツー・イン・ワンハンドの中を通して360度の円を描く。そして左手がクラブを投げるたびに、右手を1回振り回すようにする。

自信とタイミングがすべてだ。

ラブグローブ・ループは、右手でも左手でもできるから、両方練習しよう。右利きの人にとっては、左手を振り回すのはちょっと難しいかもしれないけど、どちらの手でもできるようになれば、右手のループと左手のループを組み合わせられる。1回ごとに左右を入れ替えて振り回すと、チョップがおままごとに見えるほどカッコいいパターンができるぞ。

ラブグローブ・ループは、ボール・ジャグリングのシーイング・スターズ (Seeing Stars, EBJ) の近い親戚だ。

訳注: ラブグローブは、著者の友人の名前だそうです。



訂正とお知らせ:  
前回のEBJのレビューで挙げた Butterfingers の住所は古いものです。今回の住所が正しいそうですので、訂正させていただきます。また、EBJは現在第2版が流通しており、初版より多少の加筆がされているようです。



# サークル紹介 Juggling Club

## 【サークル紹介】

このコーナーでは、全国各地のジャグリング・サークルを順次紹介していきます。

今回は 綾瀬ジャグラーズミーティング「JAM」の紹介です。

なお現在把握しているのは以下のサークルですが、ほかにご存じのサークルがありましたらご紹介ください。(順不同)  
また各サークルへの連絡先は、準備会宛にお問い合わせください。

綾瀬ジャグラーズミーティング JAM (神奈川)

<http://super.win.or.jp/marjie/JAM.htm>

ジャグリングクラブ マラバリスタ Malabaristas (東京)

<http://www.komaba.ecc.u-tokyo.ac.jp/g740476/malabaristas/>

筑駒Jugglers

筑波大学附属駒場中学・高等学校ジャグリング同好会 (東京)

<http://www.geocities.co.jp/Berkeley/1242/>

所沢 Juggling Club "JUGFLY" (埼玉)

<http://raphael.mech.kogakuin.ac.jp/ichiro/juggling/jugfly.html>

横浜ジャグラーズサークル YJC (神奈川)

静岡大道芸サークル WAPS (静岡)

<http://www.bekkoame.or.jp/ro/tomi/waps/>

京都大道芸クラブ Juggling Donuts (京都大学)

ジャグリングサークル JUG (大阪)

日本福祉大学大道芸サークル (愛知)

曲芸戦隊ジャグレンジャー (広島学院高等学校)



綾瀬ジャグラーズミーティング JAM

JAM (Ayase Jugglers Meeting)とは神奈川県中部の小さな町・綾瀬市を中心に地域に根ざした、アマチュアのジャグリングサークルです。

元々は95年秋に開催された綾瀬市役所主催の青年教室の卒業生が集まってできました。現在のメンバーは大学生から50代60代の人まで10数人と決して大人数ではありませんが、アットホームな雰囲気が自慢です。

日々の練習は、綾瀬市役所の近くにある城山中学校の特別教室を借りて各自お気に入りの芸を磨いています。(毎週水曜日 19:00~22:00)主にやっている芸は西洋ジャグリング一般、傘まわし、皿回し、一輪車、マジックです。そしてJAMの特筆すべき点として、人数の割にパフォーマンスを発表する機会に恵まれていることがあげられます。

市民まつり、公民館まつり、さらには老人施設や子供会のイベントと、多種多様のイベントに呼ばれてジャグリングを中心

としたパフォーマンスを披露しているのです。実際去年は合計30本のイベントにJAMとして出演しました。

なかでも毎年4月の「綾瀬緑化フェア」8月の「綾瀬いきいき祭り」は最重要イベントと位置づけ、この時のパフォーマンスはサークル全員で取り組んでいます。(一人一人のレベルは低くても、みんなで力を合わせればそれなりのショーを構成することができるのです。是非見に来て下さい。)

JAMとはこのようなサークルです。興味を持たれた方は一度遊びに来てみて下さい。(会費は無料です)

なお、JAMのホームページもあります。もう少し詳しいことが書いてありますので、是非ご覧下さい。

<http://www.win.or.jp/marjie/JAM.htm>

[JAM広報担当 :味元 清司<JBB01265@nifty.ne.jp>]



# 電腦空間 Juggling on Cyberspace

## 【マジックフォーラムについて】

このコーナーでは、インターネットやパソコン通信といったコンピュータネットワークとジャグリングとの関わりを紹介しています。

今回紹介するのは、パソコン通信(ニフティサーブ)内の700以上もあるフォーラムのひとつである『マジックフォーラム』です。マジックフォーラムでは、その名の通りマジック(奇術)に関する様々なことを話し合ったり情報交換等を行っています。

このフォーラムでは自己紹介、イベント情報、商品・書籍情報、海外情報、演出・アイデア等、扱う話題によって十数ヶの会議室(コーナー)が開設されていますが、その中にはマジックとは別にパラエティアート専用の会議室が数ヶ設けられ、ジャグリングをはじめとしてバレーン、大道芸、見世物、口上芸、サーカス等のパフォーマンスについて情報交換等を行っています。

ただ話題の多くはジャグリングに集中するようで、ここでもジャグリング愛好者の裾野の広がりを感じることが出来ます。

ジャグリングの技(トリック)、練習方法、イベントの報告等、内容的にも様々な話題が飛びかい、ビギナー向けからマニア向けの話まで、レベルも様々です。

もう少し詳しいことはマジックフォーラムのホームページ(右図)に載っていますので、インターネットを使える方は以下のURLにアクセスしてみてください。

<http://www.nifty.ne.jp/forum/fmagic/>

さてこのマジックフォーラムにアクセスするには、まずはニフティサーブに入会する必要があります。

加入方法については、電話(ニフティ株式会社:03-5471-5800)で問い合わせるか、ホームページ

(<http://www.nifty.ne.jp>)をご覧ください。

また先ほどのマジックフォーラムのホームページからも入会案内にリンクしていますので、そちらからもご覧になれます。

ニフティサーブにアクセスするのは有料ですが、その中にあるフォーラムに参加するのは無料です。またフォーラムのアクセス方法もパソコン通信から、あるいはインターネットから(ニュースリーダー、WWWブラウザ)と多岐にわたって使いやすくなっていますので、機会があれば是非覗いてみてください。

[安部 保範<abesan@bf.mbn.or.jp>]





# レポート Circus Report

## 【ポリショイサーカス】

ジャグリングは演じる場所が屋外であるうが屋内であるうが、スペースが狭かろうが広かろうが、360度観客が取り囲んでいようがいまいが、またたとえ真つ暗闇の中でも演じることができる、柔軟性のある驚くべきアートです。

海外ではステージやレストランなどジャグラーの活躍の場は多様ですが、反して国内ではほとんどの場合、大道芸やイベント等でしか見かけられないので残念です。少し趣の異なったジャグリングを楽しみたいと思ったらサーカスに行きましょう！

『ポリショイサーカス』

公演：1998年12月23日～1999年2月21日

場所：東京ドーム前特設サーカス劇場

2月の千秋楽近くの平日の午後に行ったのですが、立ち見が出るほどの超満員でした。今回のポリショイは若いアーティストが多かったように思いますし、相変わらず動物芸は多彩で楽しむことが出来ました。ここではジャグリングの演技を、(間違っているかもしれないけれど)記憶の範囲内で紹介します。

ジャグリングは、ロマン・マクシモフという男性の方が演じていました。

5ボールで、カスケード (Cascade)、マルチプレックス (Multiplex)、ネックキャッチ (Neck Catch)

6ボールで、ファウンテン (Fountain)

5リングで、カスケード (Cascade)、ピリエット (Pirouette)

3クラブで、カスケード (Cascade)、アルバート (Albert)、トレブラ (Trebla)、ビインド・ザ・バック (Behind The Back)、アンダー・ジ・アーム (Under The Arm)

4クラブで、ファウンテン (Fountain) しながらピリエット (Pirouette)

5クラブで、カスケード (Cascade)、(Behind The Back)、アンダー・ザ・レッグ (Under The Leg)

6クラブで、ファウンテン (Fountain)

サーカスでは、直径1.3mのリングを観客が取り囲むような形になるので、アーティストは実によく動きます。劇場でのステージでは上手(かみて)-下手(しもて)の左右での動きが主ですが、サーカスではバックステージから勢いよく前方に飛び出し、円形のステージに合わせて直線的ではなく円を意識した動きなど、豪快な演技を観られるのが楽しみです。

このロマン・マクシモフさんは、このような派手な動きはあまり観られませんでした。数々のトリック(技)をスピーディに決め続けます。特に渾身の力を込めて投げ上げた道具が示す頂点の高さには驚きます。どのくらいの高さでしょうか、ほとんど天井にぶつかくらいで、20m前後は上がっているでしょう。

これだけ高く上げれば手元に落ちてくるまで、宙返りだろうが、ピリエット数回だろうが、タバコを一服しようが(冗談)、何でも出来てしまいそうですが、彼は出来ないわけではないのに何もしません。よく考えたらそりゃそうだ。観客の目は道具を追い、これだけ高く上がれば視界から彼自身が消えてしまうので、下で待っている彼は何をやっても(アッカンベーをしても)観客は気づかないので無意味です。待つのもつらい?!

参考：

ジャグリングのトリック名などの用語については、青野さん <aotaku@pop12.odn.ne.jp>のホームページ『ジャグリング小辞典』が役に立ちます。

<http://www.geocities.co.jp/HeartLand-Suzuran/2722/juggling.html>

[安部 保範<abesan@bf.mbn.or.jp>]



## お役立ち情報 Information

### 【カルチャースクールでジャグリング】

カルチャースクールでジャグリングが講座としてとりあげられるのは、恐らく初めてのことでないでしょうか。この春に水野雅広さんと石川健三郎さんによる2つの講座が開催されます。これからジャグリングを始めようと思っていられる方には最適な講座ですね。

#### 『ジャグリング』

講師：マサヒロ水野

場所：PARCO毎日新聞カルチャシティ渋谷校(渋谷パルコ・パート2・6階)  
PARCO毎日新聞カルチャシティ厚木校(厚木パルコ・デュエ5階)

講座日程：

渋谷校：4/6(火)、4/20(火)、5/18(火)、6/1(火)、6/15(火)、6/29(火)  
厚木校：4/13(火)、4/27(火)、5/11(火)、5/25(火)、6/8(火)、6/22(火)  
両校とも18時30分～

受講料：全6回 15,000円

入会金：5,000円(カルチャシティで3年間有効)

当日持参品：ジャグリング用ボール3個

問い合わせ及び受付：

渋谷校 (Tel 03-3477-8969) 10時30分～19時30分

厚木校 (Tel 0462-96-8015) 10時30分～19時30分

3/16(火)に渋谷校で、3/23(火)に厚木校で、体験講座があります。

詳しくはカルチャシティへお問い合わせください。

#### 『ジャグリング入門』

講師：石川健三郎

場所：カルチャースクール東急セミナーB E渋谷(渋谷東急プラザ7・8階)  
講座日程：4/12(月)、4/26(月)、5/10(月)、5/24(月)、6/14(月)  
19時00分～20時30分

受講料：全5回 13,000円(教材費別途)

入会金：6,000円(カルチャースクールで3年間有効)

当日持参品：ジャグリング用ボール3個

問い合わせ及び受付：

カルチャースクール東急セミナーB E渋谷 (Tel 03-3477-6277)

月～土曜(10時～20時)日曜(10時～16時)祝祭日は定休日

3/5(金)、3/12(金)に特別講座があります。

詳しくはカルチャースクールへお問い合わせください。



## イベント Event

### 【JA サマーフェスティバル】

世界最大級のジャグリングフェスティバル「JA サマーフェスティバル」が、7月27日から31日の間、ニューヨーク州のナイアガラ・フォールズで開催されます。なお、IJA(International Jugglers Association)のホームページは、次の通り。

<http://www.juggle.org/festival/summer.html>

一緒に行きましょう!といったように、仲間を募集するのにこの紙面(ジャグラーズ通信)を使っても構いませんので、準備会宛までご連絡下さい。なお次号発行は6月中旬の予定です。

The 1999 IJA Summer Festival

Niagara Falls Convention & Civic Center, New York

Tuesday, July 27 - Saturday, July 31

### 【野毛大道芸】

4月24日(土)、4月25日(日)には、横浜市の野毛地区で毎年恒例の大道芸フェスティバルが開催されます。今年は海外から、「キップ・レイノルズ」と「To Be 2」等々がやってきます。キップさんは、ディック・フランコさんの秘蔵っ子で、コメディ派ジャグラーです。次から次へとマシンガンのように様々なジャグリングが面白いように飛び出します。To Be 2は、トリオ(ベルギー、カナダ、アメリカ)で、3人とモントリオールの国立サーカス学校を出ているだけあって、アクロバットは見ものです。



# 話題 Topic

## 【大道芸ロボット競技会】

1月16(土)、17日(日)に神奈川県横浜市にあるパシフィコ横浜で行われた日本機械学会主催の「第2回ロボットグランプリ」の中で行われた、大道芸ロボット競技についてレポートしたいと思います。

その前にこのロボットグランプリについて簡単に説明しますと、昨年、日本機械学会が創設100周年を迎え、それを記念して始まったロボット競技大会がこのロボットグランプリです。

競技は3つに分かれていて、1・大道芸ロボット競技会、2・からくりマシン競技会、3・ロボットランサー競技会、で構成されています。

大道芸ロボット競技の競技内容は、特に規制はなく、計算機で制御されるロボットを用いて3分間の演技時間で創造性、芸術性、娯楽性のあるパフォーマンスを競う競技です。

からくりマシン競技は、最大100J(ジュール)の機械的なエネルギーを利用して動く「からくり」の動きの面白さや芸術性や技術的レベルの高さ、創造性を競う競技です。

ロボットランサー競技は、エネルギー源と制御装置を内蔵し、槍を装備した槍騎兵(ランサー)のような自律型ロボットが、円周状のコースラインに沿って100秒間周回し、コースラインの左右にある標的を突いて、獲得した得点を競う競技です。

そこで今回は大道芸ロボット競技についてレポートするわけですが、実は私も参加しました。更に言うと昨年も参加している今で2回目の出場になりました。私自身ジャグリングをやっているせいか、「大道芸」と聞いていだけで何かワクワクしてきて、出なければいけないようなそんな気持ちになって参加を決意しました。

大会は2日間行われましたが、沢山の方が見に来ていました。1日目はそれほどでもありませんでしたが、2日目はNHKなどのニュースでも取り上げられた影響もあったせいか、会場を歩きまわるのが困難なほどでした。

今回出場したチームは工業高校、大学、短期大学、一般の方の全16チームでした。その中で優勝したのは、ハーモニカの演奏をした「ぞうの花子」、2位は体操の鉄棒競技をした「鉄棒ロボット」でした。他にもダンスロボット、サーカスロボット等様々なものがあり、中には調子が悪く動かなかったものもありましたが、それぞれとても楽しい芸を披露してくれたと思います。

しかしちょっと厳しいことをいうと、競技題目が大道芸ロボット競技なので、もうちょっと「人を楽しませる」ということを考えてロボットを作って欲しいと思いました。

全体的に技術レベルは高いとは思いましたが、人を楽しませるということあまり考えていないところが多かったと思います。どうい事が人にうけるのか、楽しんでもらえるのかを製作者がもっと考えれば大道芸ロボット競技がもっとよりよい物になると思います。私は大会に参加してそう思いました。

また、ジャグリングに関するものは、今年はありませんでしたが、去年は簡単な機構で3つのボールをジャグリング(カスケードのみ)するロボットがありました。

次に、今回私が製作したロボット(ELWOOD)についてちょっとだけ解説します。

題名は「あやつり人形ロボット」でリモコンにより人形の動作が制御出来るしくみになっています。あらかじめ、リモコンのボタンごとに動作する動きをプログラムしておき、私との掛け合いの中で、楽しい動きをしてショーを構成していきます。実際にダンスをしたりするのは人形で、人形の動作をDCサーボモータで糸を引っ張ることによって行なっています。

全体的なショーの流れは最初にカーテンが開き、皆さんにご挨拶をして、ラジオ体操で軽く体をほぐして、それからダンスをしました。最後はまた、皆さんへのご挨拶で締めくくりました。

去年は賞を取る事が出来ませんでした。今年「娯楽賞」をいただきました。狙っていた賞だったので大変うれしかったです。しかし、友人はロボットが賞を取ったのではなく、私がもらったような物だと言っていました。本番で私の大道芸人魂のスイッチが入ってしまったようです。自分ではそんなつもりはなかったのですが、。

また、最近ロボコンの雑誌「ロボコンマガジン」という雑誌が創刊され、日本でのロボコン人気を象徴する形になっています。次回のロボコンマガジンは今回レポートした「第2回ロボットグランプリ」が特集として組まれるようなので、興味がある方はそちらの方もチェックして見てください。ただし発行は不定期です。

私の製作した大道芸ロボットはインターネットでもご覧になれますので、興味のある方はそちらをご覧ください。

<http://raphael.mech.kogakuin.ac.jp/~ichiro/culture/culture.html>

[所沢ジャグリングクラブ「JUGFLY」代表:土田 一郎  
<ichiro@raphael.mech.kogakuin.ac.jp>]



左から私(土田)、ELWOOD、安積クン



# 調査

曲芸 傘回し」に興味のある方はいらっしゃいますか。

プロが使っている傘回し用の傘を職人さんに作っていただくためには、ある程度まとまった注文数が必要で

金銭的には数万円で、期間としては数ヶ月~半年が必要ですが、傘が欲しいという方はご連絡ください。

ご連絡いただいた人数により、注文の可否判断や希望者が集まった場合には注文方法等を検討します。

## 編集後記

投稿募集について:

「ジャグラーズ通信」の内容をより充実化させるために、例えば読者の方々とのコミュニケーションをはかるために投稿をお願いいたします。JJAに望むこと、ジャグリングについて普段感じていること、みんなに知ってもらいたいこと、あるいは質問等々なんでも結構です。(ただし営利に関わるような内容等は個別に調整させていただきます)

編集発行:安部 保範

住所:〒247-0014

横浜市栄区公田町424-9

PHS:070-51055083

Email:abesan@bf.mbn.or.jp

Nifty-Serve:QGB02014

冬は風邪、春は花粉症...  
マスクが手放せない。トホホ

